第94号
（2021年12月）

エル・エンジェルボランティア便り

発行所
NPO　エル・エンジェル国際ボランティア協会
〒243-0406
神奈川県海老名市国分北二丁目１７番１６号
tel 046-236-0001　　fax046-236-0002
http://www.l-angel.or.jp

師走・令和３年も残りわずかとなり、コロナ禍で自粛を強いられた１年でしたが、たくさんのことを学ばれた方も多いのではないでしょうか。
ところで、国連で提唱されているＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）に参加する企業・団体も増し、昨今このバッジを付けた方を見かけることも多くなってきています。
ＳＤＧｓには環境・教育・貧困・・・等17項目が掲げられています。
当協会も世界の人々の幸せに寄与できますことを願い、この働きに参加致したく申請の準備をしています。
来年が平安な良い年でありますよう心より祈念申し上げます。
今後共、ご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

覚えていますか
あの日のあなたの誓いを

☆青少年育成事業

○エル・エンジェル杯
ドッジボール大会２０２１

令和３年11月３日海老名市立中新田小学校のグランドで海老名市ドッジボール協会として初めて開催する大会となりました。
エル・エンジェル杯ドッジボール大会は過去５回行われていますが、**「ドッジボールの輪を神奈川に」**との思いで今回は10市（海老名・川崎・横浜・厚木等々）もっと広く全市にとの思いで開かれました。
幼児の部・低学年・中学年・高学年に分かれ、１チーム、７人制、49チーム、５００人以上の子ども達の闘志がぶつかり合いました。
低学年は可愛らしく、中・高学年になると力強くバシッと音がし、ボールを受け取る側も強くはじけて落としてしまったり、落とさぬようボールを持ったまま地面で回転したり迫力ある試合でした。
コロナで大変な思いをした子ども達が伸び伸びと緊張感をもって大勢の中で試合が出来たことはうれしく思いました。
一生懸命写真を撮っているお母さんにお話しを聞きに行きましたら、とてもとまどっていられました。マスクを外して会話してください口の動きで会話できますと言われハッとしました。

高学年の父兄の方でした。
毎週土曜日が練習日でたまに日曜日に練習試合があるけど、こんな大きい試合は初めてだと嬉しそうに話してくださいました。
子どもも父兄も関係者も嬉しさを味わいました。

エル・エンジェル杯として上位３位までのチーム、幼児の部・低学年の部・中学年の部・高学年の部にカップ・盾・メダルを授与、特別優秀選手賞に賞状、又全員に参加賞を渡しました。
エル・エンジェルボランティアの私達に５００余人の全員で「ありがとうございました」の礼を言われ、解散後他のクラブチームの子ども達がわざわざ私達の所に来て礼をつくされました。晴れ晴れとした天気の中、参加した私達に大きな元気をくださいました。
神奈川県全市に広がり、ますます発展することを願います。

メダル授与

☆教育支援再開（インド）

２０２０年７月からアンドラプラディッシュ州ビシャカパトナムにおいて、私立高校に在籍し家庭の経済的事情で成績優秀であるのに通学が困難になっている子ども達に、教育支援を行なっておりますが、コロナウイルス感染拡大で継続できずにいました。
９月からインドもコロナが治まりつつあり、通学出来ることとなり支援の再開となりました。

エル・エンジェルさん
ありがとうのプレートを持って

現地のロータリークラブが今年度の支援対象者に式典を開催して、食事も提供してくださいました。新聞社が取材に訪れ、学びを続けられる事の喜びで笑顔いっぱいの子ども達が紙面に記載されました。

子ども達の教育を支援することで、本人だけでなく家族までもが貧困から抜け出し、やがて地域や社会貢献に広がっていく、そのような多くの可能性を持つ教育支援を再開できましたことを嬉しく思います。

☆回想録記

○私たちの宝のために（M・A）
インドチャイルドホーム

二〇一〇年三月、大学生の私は初めてインドへのボランティアの旅に参加をさせていただきました。旅のメインであったエル・エンジェルチャイルドホーム（新設の孤児院）訪問では、子どもたちがとても温かく迎えてくれ、きれいな子供部屋、キッチン、シャワールームなど、色鮮やかな孤児院を案内頂きました。お祝いのパーティーでも、子どもたちが踊りや歌を披露してくれたりと、安心して過ごすことのできる居場所を得られた喜びの時を共有させて頂きました。

しかしその一方で、忘れられない出会いもありました。滞在先のホテルで、自分と変わらないくらいの女の子が働いていたため年齢を聞くと、十五歳と答えます。そしてどこか悲しげな表情で「学校には行っていない」と教えてくれました。この国では子どもが働くことは珍しくないのかもしれませんし、もしかしたらホテルで勤務できることは恵まれている方なのかもしれません。しかし、もし教育を受けることで選択肢が広がり、彼女が心から望む勉強や仕事を選べるような環境にあったらと思うと、胸が痛くなりました。

二〇二一年現在、**インドに限らず児童労働は世界中で行われ、その数は一億五千万人**とされています(児童の十人に一人が労働している状況)。子どもたちの未来を閉ざすことがないよう、私たち大人のなすべきことは山積みです。

十年前の旅を振り返り、あの頃の気持ちを思い出させていただきました。非力ながらも小さなことに心を込め、できることを探していきたいと思います。世界の、私たちの、宝のために。

○初めてのネパール（K・M）

私が初めてネパールに行かせていただいたのは、２００９年の秋。ネパールの学校やボランティアのお話をきかせていただきながらも機会が合わず参加させていただくことはなかった。と言うよりも当時の私はボランティアと言う言葉に疑問を抱いていたのも事実で、果たして何がボランティアなのだろうと漠然と思っていたので踏み切れない自分がいた。

しかし時は訪れた。ボランティアと言う形ではなく結果的に私が優しさと勇気をいただいて帰国すると言う癒しの時間であった。

初めてポカラの空港に降り立ち学校までの道中「ヒマラヤが見られるって言っていたけど見えないな～」と呑気に外の景色を眺めていたものだった。途中、買出しの為に下車した際に同行していた方が「今日は雲が多くてはっきり見えないね」と空を指さした。そうなのかと納得し空を見上げると緑の山の上に白い物体、いや雲と思って眺めていた。

しかしその白い物体が雲とは少し様子が違うな～と思い目を凝らすと雪を被った山々だった。

思わず「山の上に見えるのは山ですか？」と尋ねると「そうだよ、あれがヒマラヤ山脈で・・・」と山の名称を教えてくださった。言葉を失うとはこの事だと内心思っていた。ご親切に説明をして下さっている間私の中には感嘆符、ビックリマーク（！）しか浮かばない。山の上に山とは・・・それ以上の言葉はなかった。こうして私の初めてのネパールは始まった。

次の日から私は毎朝起きてはヒマラヤ山脈を見て「おおー」と呟いていた。あいにく学校からはヒマラヤ山脈は裏手にあり、ヒマラヤ山脈に抱かれている形になる。しかしそれがまた心地よい、守られていると感じる時間でもあった。山を下り振り返ればヒマラヤの山々が見える。心がほっこりした。

太陽が昇り一日が始まり、沈むと同時に一日を終える。

これは当たり前と言えば当たり前だがネパールでの時間はこの自然の営みを肌で感じ、自然と共に自分の時間を合わせていた。
現代の日本で忘れられていた時間であり、見失っていた事だと思う。
今、これを書きながら振り返ると、日本に戻りいつしかそれを忘れている自分に気が付く。
少々破天荒なネパール体験をさせていただいた私だが、毎日鳥の声を聞き(鳥は万国共通だ)、ヒマラヤの息吹を感じ、ヒマラヤに向かい車を走らせ、ヒマラヤを背に車を走らせる。この地は常にヒマラヤの恩恵と共に生活している場所だとさえ思ってしまう。
　あれから10年以上の月日が流れた。果たして今の私はあの時の澄んだ瞳でいるのだろうかと問わずにはいられない。見えるヒマラヤではあるが、見えないものに導かれ見えないもののエネルギーによって自分は在るのだと言う事を教えてくれた貴重なネパール体験であった。

○山奥の学校へ（N・Y）

ネパール・ナヤガン校

　２００８年11月某日
ひんやりとした朝の空気が、心地よかった。
その澄んだ朝の空気を、一気に吸い込む。遠くに見える緑の山々にうっすらとかかる霧雲も、その上に広がる青い空も、一緒に吸い込んでしまいそうだ。空気が、肺に、体にじんわりと広がっていく。
静かで、気持ちのいい朝だった。
その日は、山奥の小さな学校を訪問する予定になっていた。
滞在先のホテルから、それぞれ何人かに分かれてジープに乗り込む。
続くデコボコ道の上を、砂埃を巻き上げながら、幾つかの小さな村落地を走り抜け、時に、斜面ギリギリ、滑り落ちそうな狭い山道をジープが走る。
橋のない川もなんのその、水しぶきをあげながら激しくわたっていく。・・・

遊園地のジェットコースターだと思えば・・と、自己暗示をかけてなんとか不安を払拭しようとしている私をよそに、現地ドライバーさんは慣れたもの、激しくジープがバウンスする荒れた道でも余裕のハンドルさばき。
そんなこんなで、手に汗しながら、普段の日常生活では味わえないスリリングなドライブを十分に楽しんだのち、やっとある山麓に到着した。よたよたと、やや硬直気味の体をジープから降ろす。
ここからは徒歩だ。
赤茶けた粘土質の獣道のようなボコボコした山道を、足元が滑らないように、慎重に踏みしめるように歩く。徐々に口数も減り、山の側面を這うように、黙々と進んだ。遥か彼方、天空に浮かぶように連なる白く気高いヒマラヤ山脈が、時折木々の間から垣間見える。
こんな車も入れない山奥に本当に人は住めるのかしら？　こんなところに学校なんて本当にあるのだったかな？と、時折不安がよぎる。・・・ジープから降りたあの場所から歩き始めて、かなり経ったような・・・ふと前方に目をやると、遠くに、小さな青い米粒大の点々が、赤土の道らしきところに沿って、たくさん連なって見える。なんだろう。
・・・・・生徒達だ！
私たちの到着をずっと待っていてくれたのであろう、青い制服を着たたくさんの子供たちの姿に気づいた瞬間、いいようのないあたたかな感情が流れ込んできた。

さらに学校に近づくにつれ、学校にはまだ上がっていないと思われる幼い子供達が、どこからともなく駆け寄ってくる。山の中腹にある学校まで私たちと一緒に歩いてくれる。小さな、山のガイドだ。
やっとたどり着いた学校の入り口付近では、待ちわびた生徒たちが色とりどりのリースや花で、私たちを迎えてくれた。たくさんの笑顔、緊張した顔、不思議そうな視線、無邪気な顔・・
山奥にある小さな小さな学校だった。塗装のないコンクリート建てで、小さな窓がちょこんとついた小さな教室に、幾つかの古い机が置かれている。質素で小さくても、頑丈な校舎に見えた。

ＮＯＲＩＫＯライブラリー

　この学校に、今回はエル・エンジェル国際ボランティア協会を通じて、小さな図書室が建てられていた。
まだ未完成の、塗装前の図書室に入る。電球もないからか、少しひんやりとする。ほんの十数冊の薄い本が、ガラスの陳列棚に丁寧に並べられており、(盗難防止なのか) その棚は、常に施錠がされている様子だった。　学校に来ても、子供たちは自由に本の閲覧ができないのだとしたら、少し残念だな・・・。

そして、ふと思い至った。そうか、この山奥では、それだけ本が貴重なんだ且つて私が、学校や家でたくさんの本に触れる機会を与えてもらったように、ここにも、たくさんの本が並ぶといい。子供達が字を学び、本を読む喜び・楽しさを知り、興味や自分の世界を広げられる機会が少しでも増えるように、この小さな山の上にある図書室を、たくさんの本で満たしてあげたいと思った瞬間だった。(その後、会社の海外支店の同僚や、取引先の知人に英語の本の寄付を呼び掛けるきっかけとなったのだ)

さらに、図書室の建設とともに、小さな扉付きのトイレも学校の敷地内に設置されていた。

私達ほとんどの日本人が当然のこととして疑問にも思わない“扉のついたトイレ”の設置が、ここではまったくもって私の考える“フツー”ではなかったということに、驚かされる。

扉のないトイレ（そもそもトイレという設備がないことも多い)だけでなく、水道がない・、水・お湯がでない、電気・灯りがない等々・・そこで不便さを感じて初めて、日本では至ってフツー（当然）だと思って何も思わなかった、自分の恵まれた日々の生活に感謝の気持ちが芽生えた一日でもあった。

そしてその場所で、慎ましく生活を営む人々の逞しさに、改めて敬服の念を抱いた貴重な機会でもあった。

その小さな学校で、私達は、たくさんの生徒たちと一緒にかけっこやお絵描きをしたり、折り紙や竹とんぼを作ったりして、ともに時間を過ごした。　山腹にある小さな丘に、子供達の笑い声が響き渡る、穏やかで豊かな数時間だった。

エルエンジェル国際ボランティア協会が、その小さな学校の子供達に愛情と共に運んだものは、服や食物、学校設備・文房具等の物質的なものだけでなく、学ぶ機会・環境、そして子供達のより良い未来に繋がる可能性だったのだと思う。

そして、そこにいる子供達と過ごす豊かで優しい時間に、ボランティアとして参加をさせて頂いた私の中にも、日々の生活への感謝とともに、心に何か柔らかいものが少しだけ芽吹いたような感覚があった・・・私個人としての可能性をも広げてくれたのだ。

今でも、時々この学校での経験を思い出す。

帰途についた私達の姿が見えなくなるまで、ずっと手を振って見送ってくれた子供達や村の人々の笑顔、車が待つ場所まで下山する私達のあとを追いかけて、かなり遠くまで、はだし同然の足で一緒に歩いてくれた子供達。

元気でいるだろうか。大きくなって今は何をしているのだろうか。

まだ学校に通っている子もいるだろうか。

逞しく、生きているだろうか。

気高いヒマラヤを仰ぎ見る山の中腹にある、小さな学校で出会った子供達が、今も元気で幸せでいることを、心から願っている。

○命の再生

ネパール・ナヤガン（Y・N）

初めてナヤガン校を訪れた時、一人の10歳位のかぼそい女の子がかたわらに来て、離れようともしないでもじもじしていた。

見ると女の子の背中はまん丸く大きなコブのような物があるようだった。

これは大変な病気かもしれないと思い、駐在員のグプタ氏にすぐに病院で診てもらうようお願いした。

帰国後、駐在員から電話が入り「感染症からきている大変な病気で大きな手術を要するのでもしかしたらインドの病院へ行かなければ」とのことでした。

「とにかく最善を尽くして下さい」とお願いした。

カトマンズの病院で手術することとなり、幼い子とて母親に付き添ってもらうよう伝えた。

それから約３ヶ月後リハビリも終え無事退院し元気との報告を受け安堵しました。

次の年ナヤガンを訪れた時はニコニコと元気な姿を見せてくれました。

その姿を喜ぶと共に何よりも女の子の**父親の変化**でした。

以前はお酒を飲みあまり仕事もしなく家族を困らせていたとのことでしたが、訪れた私達へ懸命に世話する姿に感謝を伝えたいとの思いが伝わり、再生は幾重にも広がっていき、心が豊かに導かれるということなのかと思わされました。

～こころ～

虹色に輝く雲

彩雲を見ると良いことがあると聞いてから、見ては嬉しく思っていました。

２年前、１時間で３度彩雲を見た後、田舎で一人暮らしの母が会食中、意識がなくなり救急車で運ばれたと連絡がありました。彩雲を３度も見たのにと、瞬思いましたが、少し落ち着くと、一人の時でなくて良かった、守っていただいているのだと思いました。

今年初め、見渡す限り彩雲に囲まれている夢を見ました。この時、全てが彩雲なのに、私が見えてないのではと思いました。

最近また頻繁に見るようになり、期待するも、何もしていない私には良いことなんて無いだろう、見えたことがご褒美だとそう思いました。

でも、見えるということは、生きていることがご褒美で、自分に見えること、起こること、知ったつもりになっていることが全てではなく、見えない大きな力で守られていて、自分は生かされている小さな存在であることに気づく為に、一瞬で消えてしまう彩雲を見せていただいているのだと思えました。

このご時世だからこそ、ゆったりと空を見上げ、今あることに感謝する日々を過ごしたいと思います。

（Ｙ・Ｅ）

☆一年を振り返って

今年は、コロナの影響で人との関わりが制限された中、当協会では、成績優秀で経済的に事情のあるお子さんの高校進学に向け制服や学用品等の支援をさせて頂き、共に喜びを分かち合う機会をいただきました。

子どもは「希望」国の宝です。幸い本年は災害支援がなく、当協会では、未来を担う子ども達のスポーツを通して健全な精神を養う青少年育成事業を支援させてもらっています。

子ども達のひたむきに頑張る姿と表彰式での笑顔に、いつも事業の意義を思います。

☆お知らせ

青少年育成事業

12月4日（土）
バスケットボール大会
海老名運動公園総合体育館

12月26日（日）
ドッジボール大会
中新田小学校

○　“共に助け合いたい”それが私たちの願いです。ご協力、よろしくお願いいたします。

○　支援金振込先　郵便口座　口座名　特定非営利活動法人エル・エンジェル
記号　１０２９０　口座番号　６８１０７１９１

ゆうちょ銀行　口座名　特定非営利活動法人エル・エンジェル
店名　（０２８）　店番　（０２８）　普通預金　口座番号　６８１０７１９

三菱東京ＵＦＪ銀行　口座名　特定非営利活動法人エル・エンジェル国際ボランティア協会
海老名支店（４０９）　普通預金　口座番号　０９６６５９７

☆石巻の子ども達

○お誕生日プレゼント

10月で18歳となるＫ君のお誕生日プレゼントに商品券とクロスのボールペン・洋菓子・バースデーカードを送らせて頂きました。

保護者様よりお礼の電話を頂きました。

ディズニーランドに招待した時、朝食の席にミッキーが挨拶に来てくれました。次々来るミッキー達に笑顔で駆け寄りちょっかいを出していた姿が思いだされます。

当協会のお誕生日祝いは18歳までとなっています。

Ｋ君へのお誕生日
プレゼント

○編集後記

葉を落とした樹々には来る春を待つ確かな希望が見えます。

国によって事情が異なる中、日本人の多くがワクチン接種を得・安堵し、希望の光を見る事が出来た有難い一年でしたが、その陰にはたくさんの方々の献身のあった事も心に留めたいと思います。

（Ｍ・Ｓ）